

1-1 [教科や活動の好き嫌い]

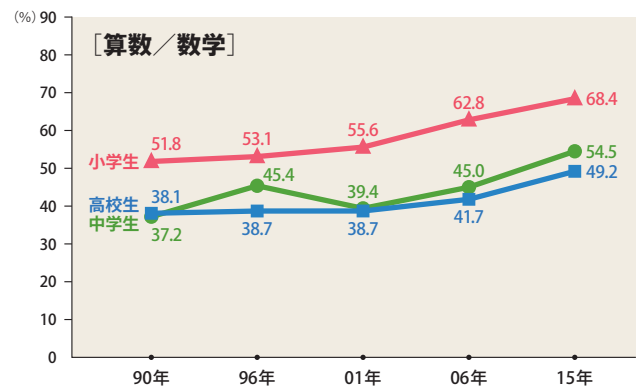
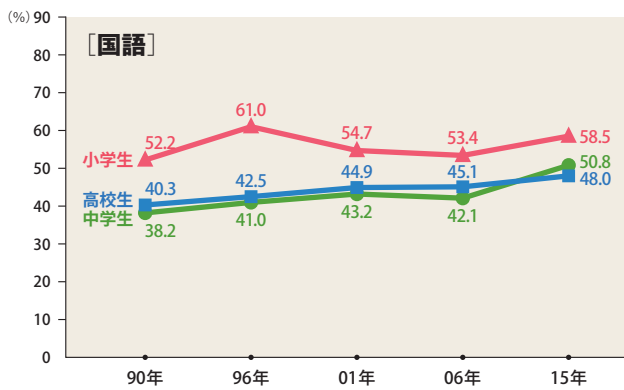
「総合的な学習の時間」の「好き」の割合が上昇

多くの教科で「好き」の割合（「とても好き」+「まあ好き」）が上昇した。特に「総合的な学習の時間」は中高生で2006年に比べて約15ポイント上昇し、中学生の「社会」も16.7ポイント上昇している。また、1990年からみると、「算数・数学」が、小・中・高校生のいずれにおいても10ポイント以上増加した。「理科」については、小学生と中学生の「好き」の割合の差が他教科に比べて大きくなっている。

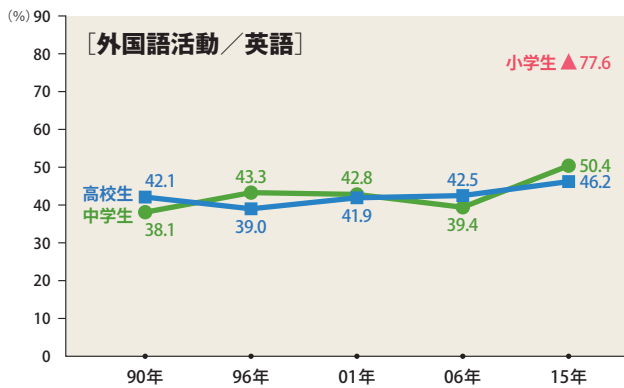
Q あなたは、次の教科や学習の時間の勉強がどのくらい好きですか。

図1-1 好きな教科（小学生・中学生・高校生）

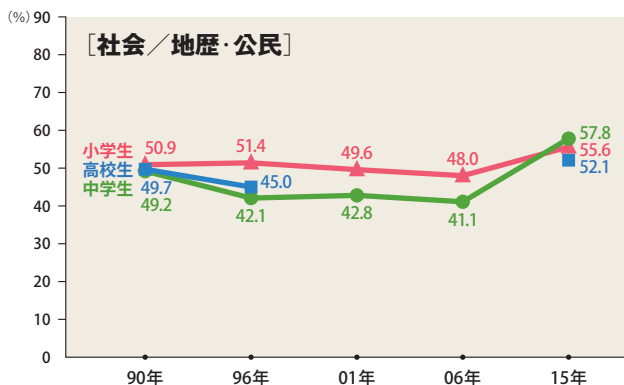
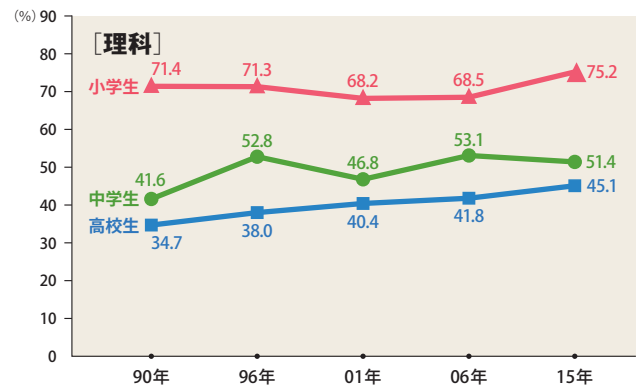
「とても好き」+「まあ好き」の%



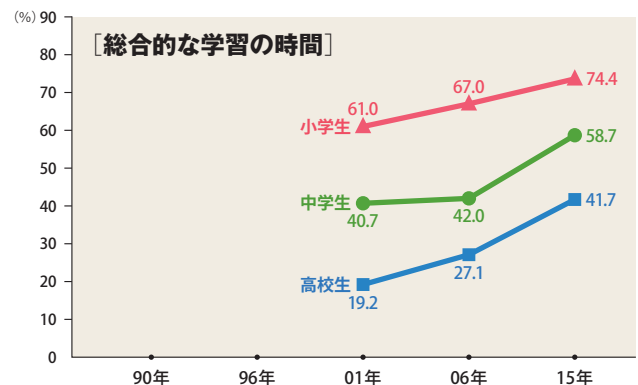
注) 小学生は「算数」、中学生・高校生は「数学」である。



注) 小学生は「外国語(英語)活動」、中学生・高校生は「英語」である。
小学生は15年のみならずねている。



注) 高校生は、90年は「社会」、96年と15年は「地歴・公民」としてたずねている。
01年・06年は「地歴」「公民」に分けてたずねているため、表示はしていない。



注) 01年のみ、選択肢に「履修したことがない」が含まれるため、「履修したことがない」を除いて集計。

1-2 [授業の理解度]

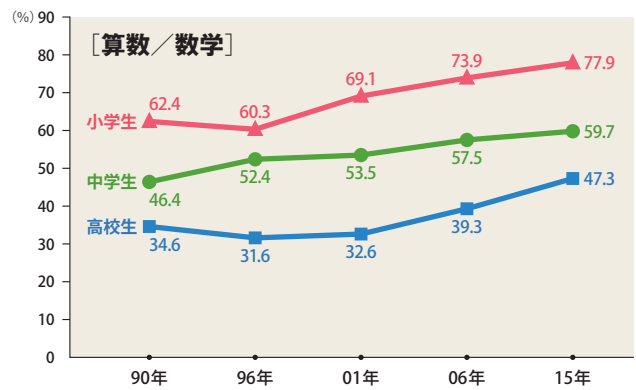
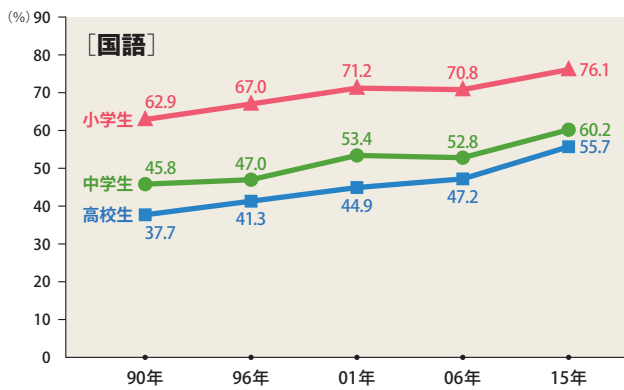
小・中・高校生とも授業の理解度が高まっている

小・中・高校生とも、ほとんどの教科で授業の理解度（「ほとんどわかっている」+「70%くらいわかっている」の%）が、2006年より上昇している。1990年からみると、下図に示した5教科の中で、中学生の「理科」以外はすべて10ポイント以上上昇している。「理科」は、前頁の「好き」の割合と同様に、他教科に比べて小学生と中学生の間の理解度の差が大きくなっており、小学生と中学生の間にギャップがあることが読み取れる。

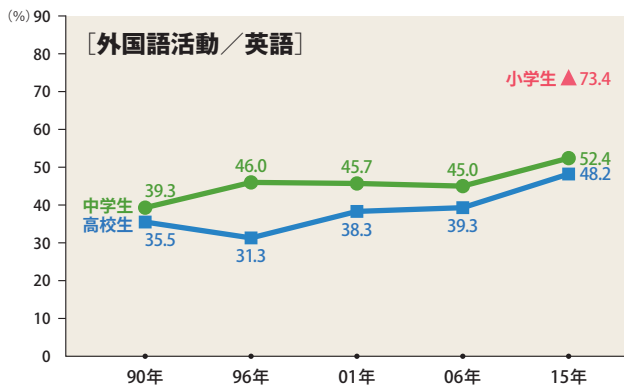
Q 学校の授業をどのくらい理解していますか（わかっていますか）。

図1-2 授業の理解度（小学生・中学生・高校生）

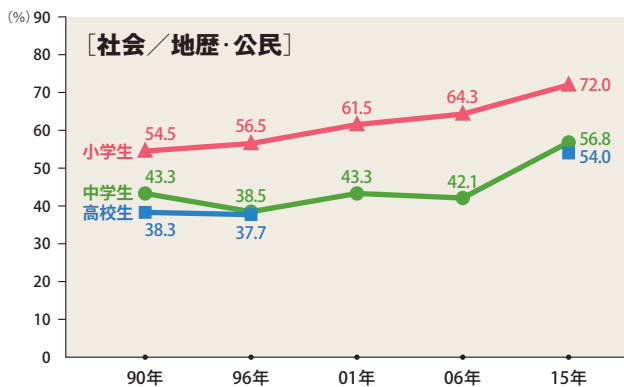
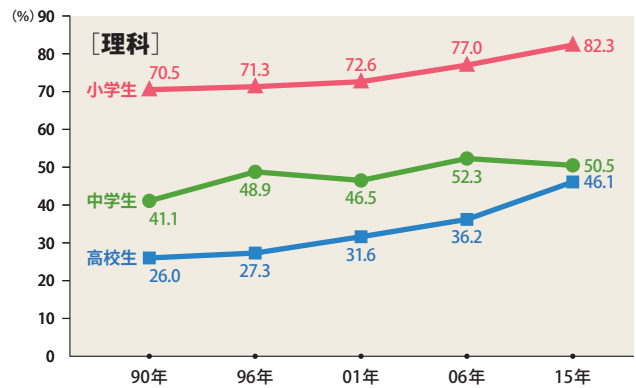
「ほとんどわかっている」+「70%くらいわかっている」の%



注) 小学生は「算数」。中学生・高校生は「数学」である。



注) 小学生は「外国語（英語）活動」、中学生・高校生は「英語」である。
小学生は15年のみならずねている。



注) 高校生は、90年は「社会」、96年と15年は「地歴・公民」としてたずねている。
01年・06年は「地歴」「公民」に分けてたずねているため、表示はしていない。

1-3 [授業で好きな学習方法]

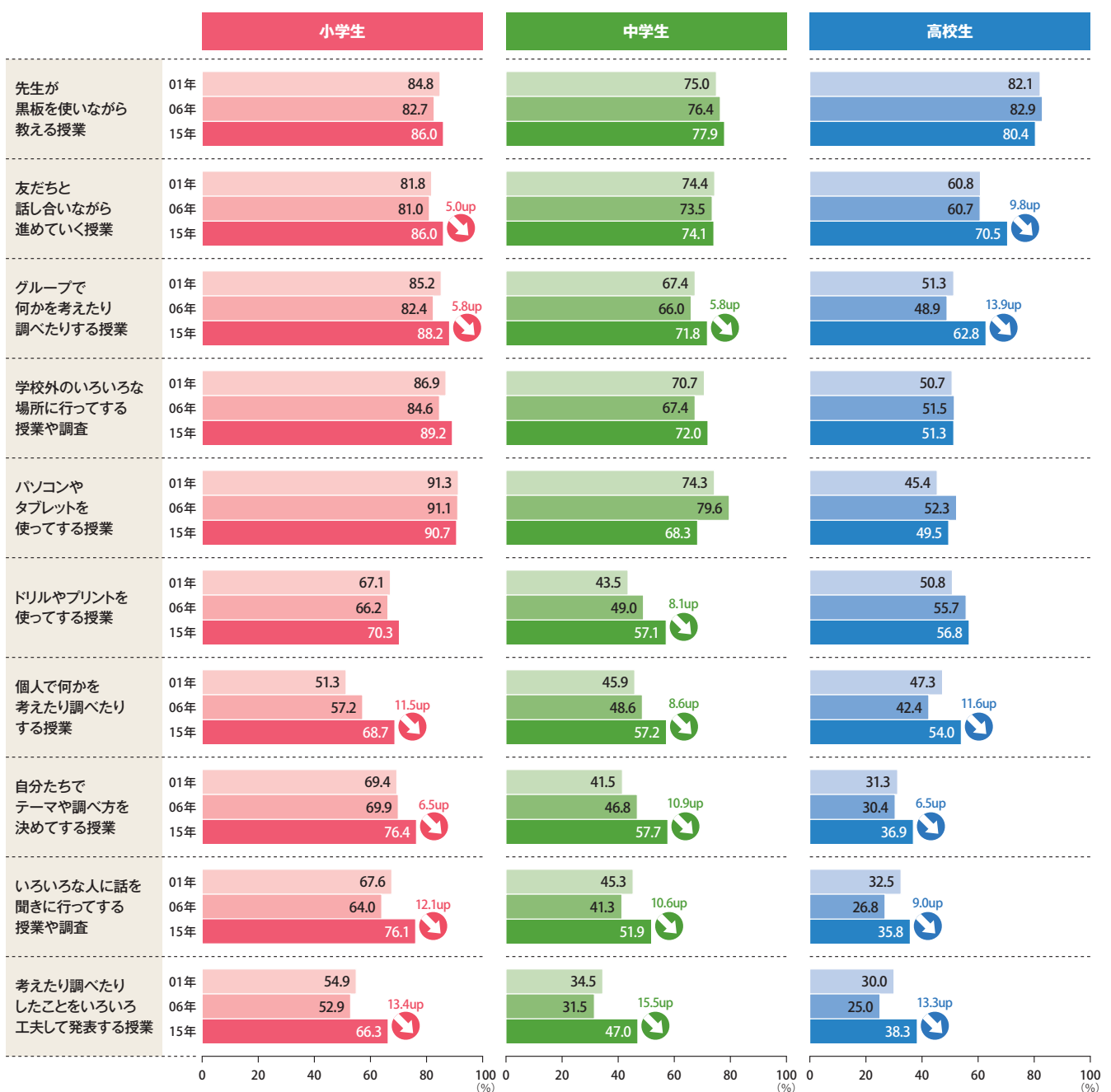
アクティブ・ラーニング型の授業を「好き」という回答が増えている

2006年に比べると、小・中・高校生ともアクティブ・ラーニング型の授業の多くで「好き」の割合（「とても好き」＋「好き」、以下同）が増えている。特に「考えたり調べたりしたことをいろいろ工夫して発表する授業」は、いずれの学校段階でも「好き」が10ポイント以上増加した。しかし、中学生と高校生では、まだ5割に満たない。中学生で「好き」がもっとも高いのは「先生が黒板を使いながら教える授業」だが、次いで「友だちと話し合いながら進めていく授業」などのグループ活動に関する項目が高くなっている。

Q あなたは、次にあげる学校の勉強方法が、どのくらい好きですか。

図1-3 授業で好きな学習方法（小学生・中学生・高校生）

「とても好き」＋「好き」の%



注1) 小学生は「とても好き」「好き」「好きでない」「ぜんぜん好きでない」の4つの選択肢、中学生・高校生はそれに「やっていない」を含めた5つの選択肢でたずねている。

注2) 「パソコンやタブレットを使ってする授業」は01年・06年では「パソコンを使ってする勉強」としてたずねている。

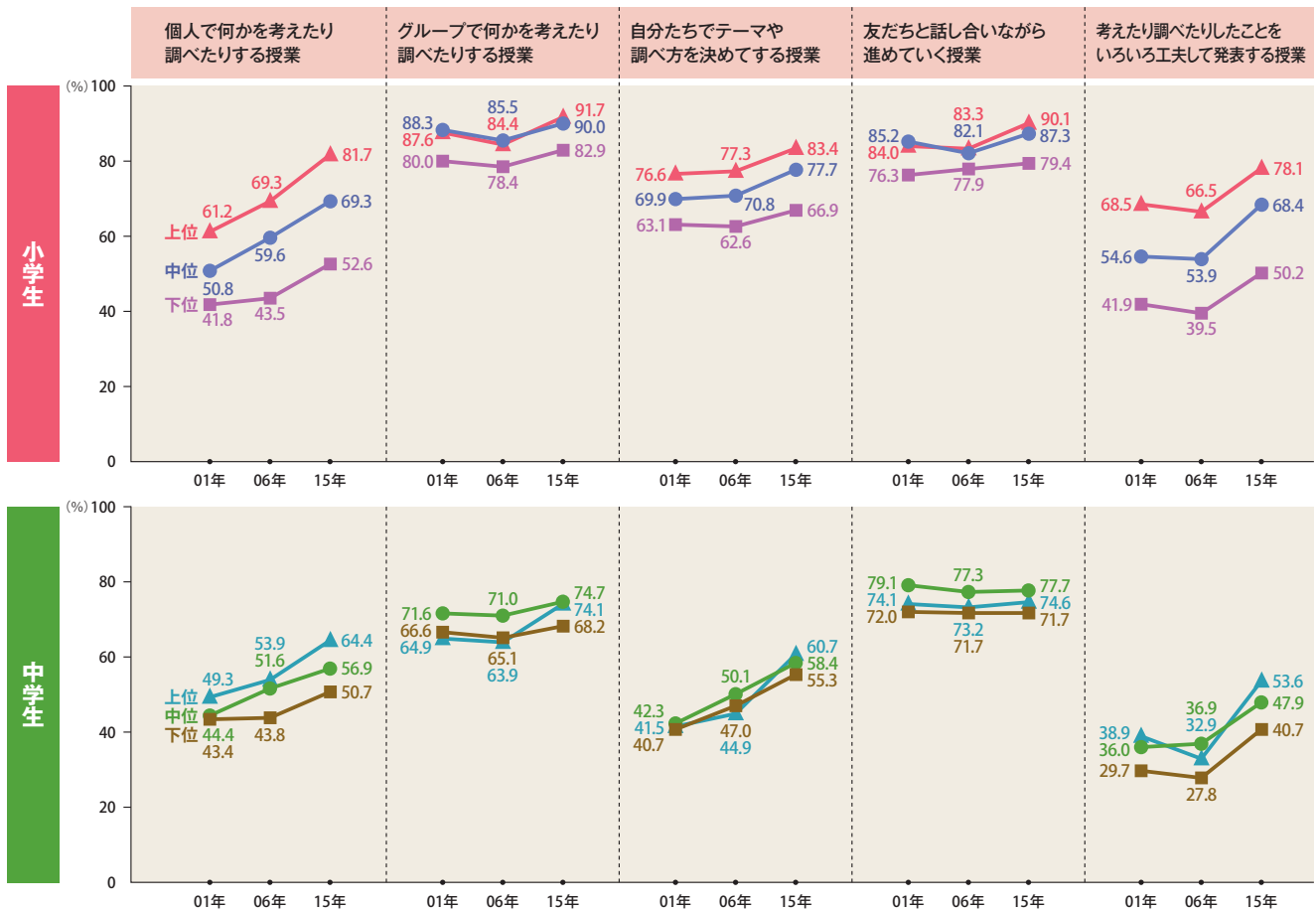
注3) ↘↘↘の数値は、06年に比べて約5ポイント以上アップしているものについて、そのポイントの差を表す。

1-3 [授業で好きな学習方法]

アクティブ・ラーニング型の授業は小学生より中学生で「好き」が少なく、成績層別の差も縮まる

図1-4 授業で好きな学習方法（小学生・中学生、成績自己評価別・5項目）

「とても好き」+「好き」の%

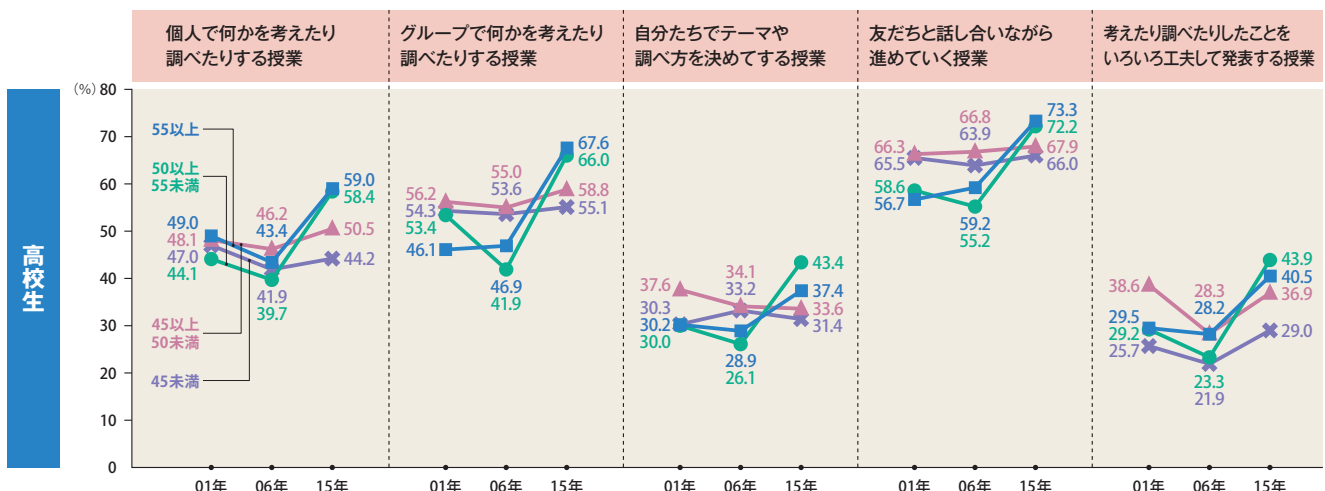


注1) 小学生は「とても好き」「好き」「好きでない」「ぜんぜん好きでない」の4つの選択肢、中学生はそれに「やっていない」を含めた5つの選択肢でたずねている。
 注2) 成績自己評価は、「現在の総合的な成績は、学年の中でどのくらいですか」の項目に「1(上のほう)～3」と回答した人を「上位」、4(真ん中)を「中位」、5～7(下のほう)を「下位」としている。

高校生は、偏差値50以上の学校の生徒で「好き」の増加幅が大きい

図1-5 授業で好きな学習方法（高校生、学校偏差値帯別）

「とても好き」+「好き」の%



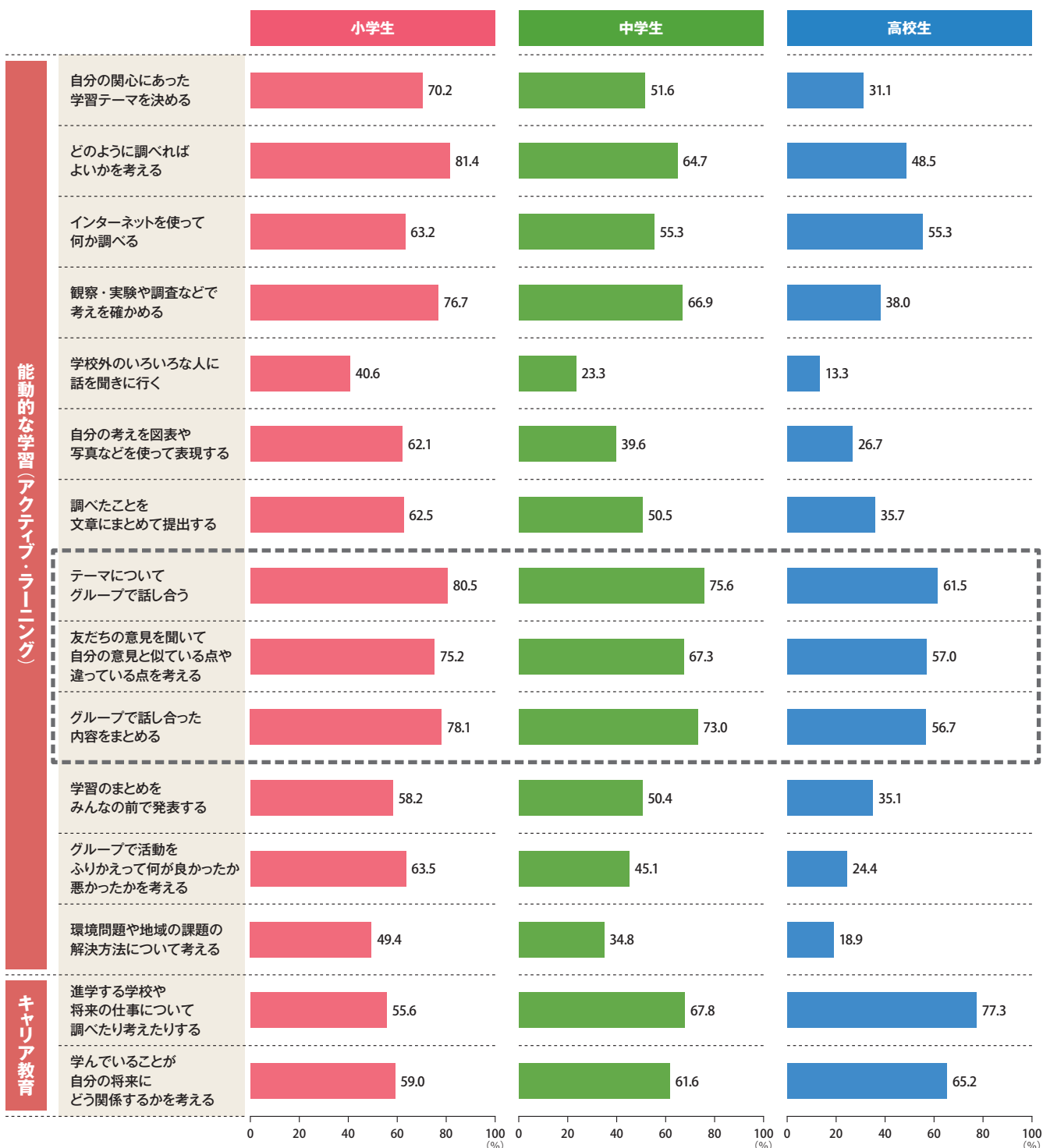
1-4 [能動的な学習(アクティブ・ラーニング)などの実施率]

グループ学習は高校生も6割程度が「よくする」または「時々する」と回答

能動的な学習活動をどのくらい行っているのかをたずねたところ、全体に小学生が高く、学校段階が上がるほど低くなっている。その中でも「テーマについてグループで話し合う」などグループ学習に関することは高校でも6割程度が「する」「よくする」+「時々する」と回答している。また、キャリア教育・進路学習に関する2項目については、高校生の方が実施率が高くなっている。

Q あなたは授業の中で、次のような学習をどのくらい行っていますか。

図1-6 能動的な学習・キャリア教育の実施率(小学生・中学生・高校生) 「よくする」+「時々する」の%



1-5 [興味・関心の広がり]

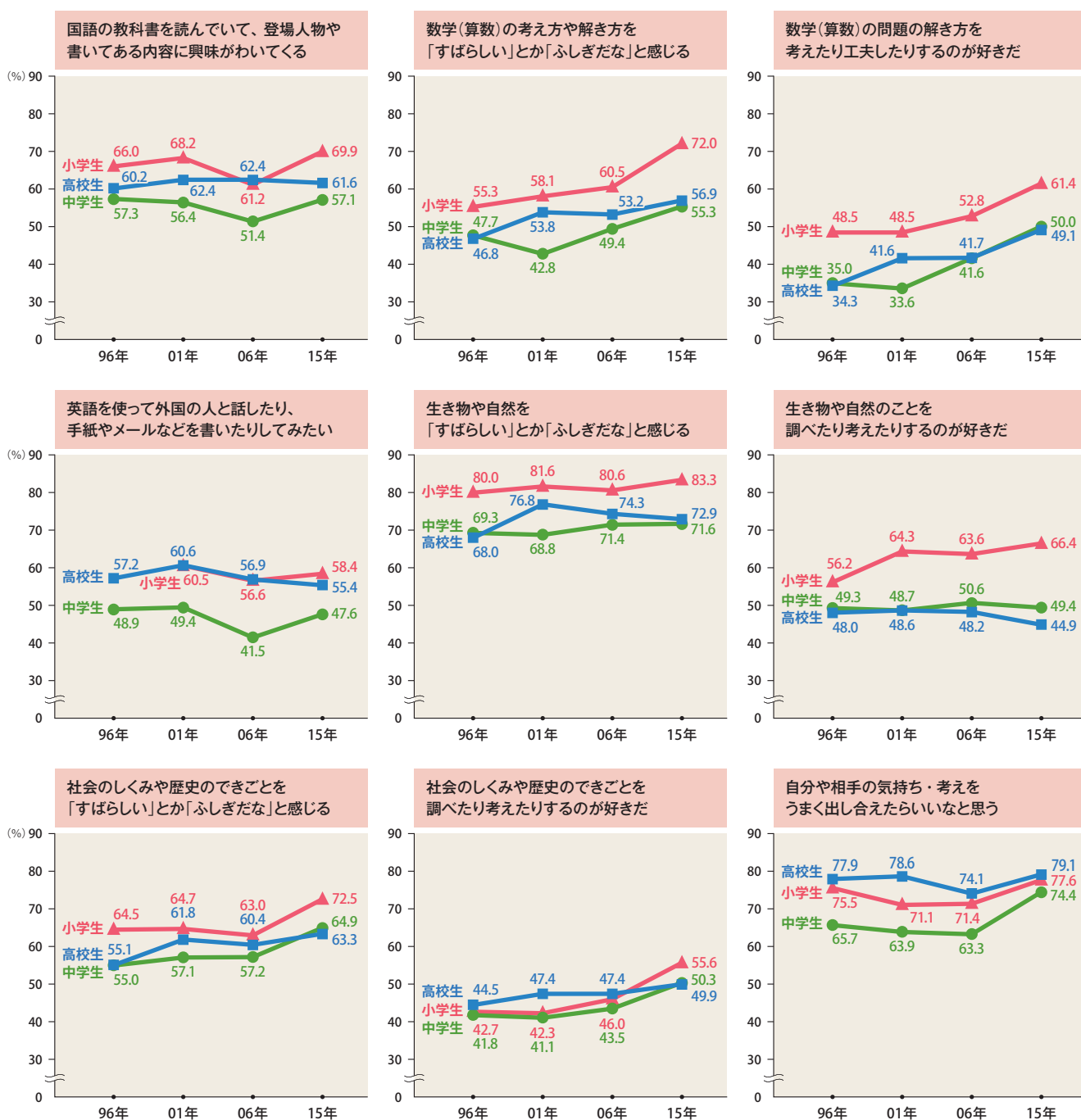
小学生で「算数」への興味・関心が上昇

勉強をしていて感じることを、小学生は「算数の考え方や解き方を『すばらしい』とか『ふしぎだな』と感じる」が2006年比で11.5ポイントアップしており、その他の項目も上昇しているものが多い。中学生も、2006年比の変化はほぼ小学生と同様の傾向であるが、「自分や相手の気持ち・考えをうまく出し合えたらいいなと思う」の上昇幅が大きく、11.1ポイントアップしている。高校生は小中学生より変化の幅が小さく、ほぼ横ばいのものが多い。

Q あなたは勉強していて、次のように感じることはありませんか。

図1-7 興味・関心の広がり(小学生・中学生・高校生)

「よくある」+「時々ある」の%



注) 算数・数学に関する項目は、小学生は「算数」として、中学生・高校生は「数学」としてたずねている。